

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

# 焼津福祉文化共創研究会通信 第77号



## 新年あけましておめでとうございます。

地域を知る、地域で学ぶ、住民主体の講座開講から誕生した「焼津福祉文化共創研究会」は8年目の活動に入ります。今年も、身近な地域の話題を自由に語り合う活動を行います。よろしくお祈りします。

2026年 元旦  
焼津福祉文化共創研究会



**集まる居場所は、自然体がいい。語れる環境、男性の出番、楽しいをみんなで創る。**  
**12月(第81回)定例会(12/14 開催)は、「掛川市初馬区・一膳会」からの学びを語り合う。**

### \* 地域性を学ぶ

- ・掛川駅から1.5キロ北東の住宅地域から、粟ヶ岳すそのまで広がる自然豊かな農村地域である環境から、人的交流が深いと感じた。なにか、石津地域の昔を思い出したような環境であった。
- ・声を掛け合い、お互い様の関係が維持されているように伺えた。
- ・代表者である住職の存在(キーパーソンの立ち位置)は大きく、男性は地域環境を理解したうえで、福祉活動への参画が自然につながっている。活動自体、男性の居場所機能があること、男性は、日常的に人的接点があること、地域には、男性だけの集まる場もあると伺った。

### \* 集まる居場所の仕組み

- ・男性スタッフ7名が支援者として、約15名程の女性(平均年齢89歳、最高年齢97歳)は、1月2回の集いを楽しみに参加している。「語れる環境」も読み取ることが出来た。
- ・男性スタッフによる運営は、調理を担うグループと、参加者とともにふれあい交流をするグループが自然体で日課を創り上げている。和やかに、見事な連係プレーが出来ていた。
- ・約30年間継続して運営していることで、民生委員活動の一環とも受け止めることが出来る。

### \* ふれあい交流からのご近所福祉を学ぶ

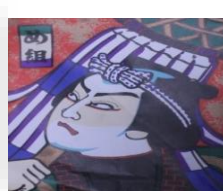
- ・孤食防止を目標に掲げているが、個々の高齢者の状態ではなく、地域における日常生活全般から、家族や地域からの孤立化を防ぐための運営と受け止めることが出来る。
- ・誘われて参加し、仲間が出来、その仲間から野菜の栽培の手ほどきを教えてもらい楽しい。
- ・91歳過ぎてから誘われて参加しているが、もっと早くから参加すればよかったと語る参加者がいた。

### \* 高齢者から見た居場所を学ぶ

- ・お互いに、支え合い、居場所全体では、参加者同士が言い合えるつながり雰囲気を読み取ることが出来た。お互いに、参加者自身は立ち位置をわきまえていたように受け止めることが出来た。



\* 男性スタッフによる「クリスマスメニューの会食」の後、2つのグループに分かれて「初馬のご近所あれこれ」をお聞きした。そして、男性スタッフによる本日の取組の反省会に同席させていただいた。改めて、初馬地区の地域力のすごさを学んだ一日であった。



\* 親子が、富士山にとどくと石津海岸公園で凧揚げ 石津西公園でも

\* こんな遊びも、今は昔のことになったか



## シリーズ⑳ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「り」「る」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

\*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



安心・安全な街は清潔な地域環境から生まれます。「環境美化」は、日頃から、正しいゴミの分別を徹底しましょう。



老若男女、誰もが楽しめるお祭りが地域の発展につながります。住民の努力で、これまでの「地域行事」を継続して、町おこしに努めましょう。



## シリーズ④「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体：静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの10年間にかかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

### 第4回は「居場所・サロンその2 認知症カフェで地域を語る」

#### ■進め方

- \*あまり、理論的な活用方法の説明を重視しないで、読み手は、声を大きくはっきり伝わるように心掛け、最後まで「読み札」が読み終わったら、かるた取りをする。
- \*参加者の状況により、見学する方々もいて、応援し合う中で、楽しいひと時を過ごす工夫をする。少し、間を取りながら、「読み札」の内容を、応援している皆さんにも、話題を広げていく。または、支援者自身のご近所を紹介しながら、利用者の明日につなぐ明るさの保有に心掛ける。

#### ■楽しさの工夫

- \*全てのかるたを使用しないで、地域の環境をある程度理解していくために、あらかじめ、「ご近所あるある、この現状」と題して、当日使用する「かるた」を選別して、ゆっくりと展開をしていく。
- \*見学・応援する方々を設けることで、和やかさを広げる試みもできる。



#### ■留意点

- \*競争心をもたないように、「読み札」の紹介は、ゆっくりはっきりとした口調で進める。

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていこうと、令和元年度に結成して、7年間活動に取り組んでいる。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(焼津福祉文化共創研究会)への問い合わせは下記にお願いします。〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田厚  
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547  
E-MAIL: monogusa-tomv@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会  
QRコード



静岡福祉文化を考える会  
QRコード

